

## 待降節第一主日 A年

マタイ 24 : 37~44

2010.11.28 高円寺教会

今日の典礼から、待降節に入り教会は新しい年を迎えます。しかし、暦の上でもまだ11月、なかなかイエスの誕生を迎える心になりにくいかもしれません。

高円寺教会では先週延期になっていた教会祭りが開かれました。また、高円寺教会のためにも、ボーイスカウトのためにも、東京教区にとっても大きな働きをされてきた湖西さんが亡くなられ、そのお通夜とご葬儀が行われました。私は、式には伺えなかったのですが、お顔だけ水曜日に拝見し、湖西さんとの思い出や、ご家族のこと、やり残したとされていることなどを考えました。故人との関わり、故人のやり残したことに思いを馳せることも大切で、死者との関わりと、待降節の準備とを並行することになります。

さて、待降節第1主日に読まれた福音は、直接にはイエスの誕生についてまだ触れてはいません。この数週間読まれてきた、終末思想の最後の部分です。終末思想とは、世の終わりに、人の子、イエスがもう一度この世に現われて、神様がすべての死者をよみがえらせ、裁き（神による秩序の回復・正義の実現）が下されるという思想です。それもすぐにやってくるという切迫感をもってマタイ福音書では描かれています。今日の福音では「目覚めていなさい」という印象的な言葉を用いて語られています。

私は、修士論文の提出期限が迫っていて、この「目覚めていなさい」という言葉が「寝ないで書きなさい」に思えてしまうのですが、自覚が足りないのか案外夜は平気でよく眠れます。逆に、不安のために眠れない人が大勢います。私がだいぶ以前から関わっている方に、強迫性障害と言うんだそうですが、家の戸締りを何度確認しても心配で外出できない人がおられます。もう外出しなければいけない時間なのに不安で出られない、と相談の電話やメールが入ってきます。そのたびに励ましの言葉やメールを送り、不安が去るようと聖堂に行って祈ります。世の終わりの前兆とされる、地震や災害、戦争と言った不安（11月14日の福音箇所 ルカ 21 : 5~19）のかなり手前の段階で、人々は不安におびえています。生きていることそのものが不安なのかもしれません。私は、そのような方の不安や苦しみを取り去られるように、ロザリオの祈りをしますが、時々、私自身が不安に襲われます。このような関わり方でいいのだろうか？ もっといい方法があるのではないか？ いつになったらその方の不安は消えるのだろうか？…と私自身が疑心暗鬼になってしまうことがあります。

ある有名な聖書学者は、今と永遠との関わりを3つの点から説明されています。1点目は、現在体験していることだけがすべてではなく、目に見える世界以上の何かがあることに心を向けましょう。現在体験していることだけが唯一重大と思いきまないうちにしましょう、と言っています。2点目は、この不安や苦しみの状態は永遠のことではないのに、すぐに結果を出したがる場所に人間の苦しさがあります。視線を遠くにやり、いつか報われる、解放されることへの希望を持ちましょう、と言われてい

ます。3点目は、この世での不安な時、苦しみの時は、神様からの清めの時として受け止めることが大切でしょう。今の悲しみや苦しみを通して神は私たちを清め、聖性を高めようとしていることを心に留めましょう、と言われていました。

私たちは、ついつい目の前にことに気を取られて、将来に期待することを忘れてしまいがちです。今の3つの指摘は、目先のことに囚われ、悲観的に考えてしまう時に、励ましてくれる言葉です。また、今日の福音にある「目覚めている」とは、今の視点を心の留めて日々歩むことなのでしょう。

そして、クリスマスは、そのような不安で一杯の人に大きな救いのメッセージを与えてくれます。信仰をもって待ち望めば必ず平和が与えられる、その証、神様からの尽きない愛の証が幼子イエスの誕生です。イエス様は、2千年前に誕生しただけでなく、今の私たちのためにも、もうすぐまた誕生して下さいます。そのことを強く心に留めましょう。

私たち自身にとっても、不安を抱えて生きている人々にとっても、救いと平和のメッセージが心に染みるクリスマスが迎えられるようにこの4週間、良い準備をしてまいりましょう。

イエズス会司祭 柴田 潔